

日本の手織機 便り

2004年3月

第1号



東京農工大学工学部附属纖維博物館では日本各地の手織機の15/100の縮尺模型を多数所蔵しております。この模型は元東京都纖維工業試験場の重松成二氏が1980年代に各地の古い手織機を尋ねて調査し、縮尺模型を作成して博物館に寄贈した貴重なものです。

纖維博物館では現在、文部科学省科学研究費補助金・特定領域研究「江戸のモノづくり」の研究班に所属し、江戸時代から続く日本の纖維技術の歴史を研究しております。その一環として2003年12月に縮尺模型のモデルとな

った手織機の現在の状態を調査しました。調査の際には皆様方から手織機にまつわるいろいろな情報が寄せられましたので、ご協力いただいた館や工房・個人の方に公開するために、この日本の手織機便りを発行することにしました。(年4回程度の発行を予定しています)

今後も手織機や織物に関する情報などがありましたらどうぞお知らせ下さい。

東京農工大学工学部附属纖維博物館

田中 鶴代

手織機情報紹介

やすぎ 安来織高機 島根県安来市 遠藤千恵子工房所蔵

島根県出雲地方には絣織があるが、明治30年(1897年)生まれの遠藤小間野は藍色のたて糸、白いよこ糸で模様を織り出す絵絣を考案。遠藤家と親交のあった民芸運動家の河井寛次郎が安来織と命名した。重松模型の原機は小間野が嫁入り道具として持参したもので、100年以上経過しているが、現在も織ることができる。安来織は遠藤小間野(平成3年没)、遠藤千恵子、三島純子(千恵子の娘)と受継がれ、技術の普及に努めている。

—遠藤千恵子氏より



だんつう 堺縞通織機 大阪府堺市

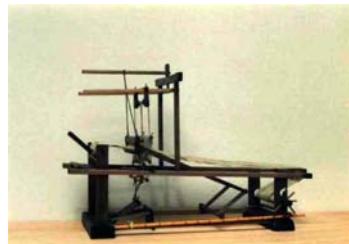
堺縞通は幕末に中国から技術が輸入されたという。日本ではほとんどない垂直機。8m幅のものも織った。1980年代には後継者もほとんど絶え、重松模型の原機があった辻林工房も平成12年に廃業した。辻林工房の織機は大阪刑務所に移され、受刑者の刑務作業用に使われることになった。しかしあまりに巨大なので解体され、現在では縮小した復元機で織っている。

—堺式手織縞通技術保存協会 久城憲三郎氏より



高機 京都府竹野郡網野町 網野町立郷土資料館所蔵

網野町立郷土資料館では、丹後縮緬など養蚕・織物に関する資料を多数所蔵。この高機はかなり大型（全長245cm）で、笈吊り、綜続吊りの腕木も長い。平成14年に修復し、織ることができるようになった。文化祭の際にははたおり体験講座を企画、子ども達も参加して大盛況であった。



—網野町教育委員会 小山元孝氏より

手織機縮尺模型作成者 重松 成二（しげまつ・せいじ）氏の経歴



1926年	東京・本郷に生まれる
1947年	東京繊維専門学校（現東京農工大学工学部）卒業
同年～	東京都立繊維工業試験場に勤務
1980年頃～	染色加工・消費科学、伝統的手仕事の人間工学研究に従事
1984年	全国各地の手織機のミニチュア復元に着手する
同年	第1回手織機模型展開催
1985年	都立繊維工業試験場退職
1999年	非常勤講師勤務（杉野女子大ほか）
2002年	同上退職、第4回手織機模型展開催
	11月13日 永眠

繊維博物館からのお知らせ

重松手織機模型の原機所在地リストを作成しました。誤り・お気づきの点がありましたらお知らせ下さい。手織機情報はこれからも掲載していくので、情報をお待ちしています。

重松氏夫人一江様より、重松氏の遺品である日本の手織機に関する資料多数を寄贈していただきました。その中に調査した手織機の製図が含まれております。現在整理中ですが、手織機の修復・復元を計画されている館等にご協力したいと思いますのでご連絡下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

日本の手織機便り 第1号

発行 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部附属繊維博物館 田中鶴代

発行日 平成16年3月15日